第6回 三朝町議会定例会会議録（第2日）

平成23年6月14日（火曜日）

議事日程

平成23年6月14日 午前10時開議

日程第1 一般質問

杉原憲靖 議員

福田茂樹 議員

清水成眞 議員

知久馬 二三子 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

杉原憲靖 議員

福田茂樹 議員

清水成眞 議員

知久馬 二三子 議員

出席議員（12名）

1番 清水成眞

2番 藤井克孝

3番 吉田文夫

4番 福田茂樹

5番 遠藤勝太郎

6番 平井満博

7番 松村 修

8番 横木文雄

9番 知久馬 二三子

10番 山田道治

11番 杉原憲靖

12番 牧田武文

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 石 井 秀 己 事務局長補佐 ————— 山 中 恵 子

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 吉 田 秀 光 副町長 ————— 森 脇 光 洋
会計管理者 ————— 松 原 茂 隆 総務課長 ————— 朝 倉 聡
財務課長 ————— 大 村 哲 也 税務課長 ————— 石 原 伸 二
企画観光課長 ————— 松 浦 弘 幸 農林課長 ————— 早 苗 睦 巳
町民課長 ————— 山 根 猛 昭 建設水道課長 ————— 岩 山 靖 尚
健康福祉課長 ————— 前 田 敦 子 総務課危機管理担当参事 — 松 原 照 宗
農業委員会事務局長 ——— 真 嶋 峰 和 教育委員会委員長 ——— 山 本 邦 彦
教育長 ————— 山 口 博 教育総務課長 ————— 遠 藤 英 臣
生涯学習課長 ————— 山 根 智 美 農業委員会会長 ————— 安 藤 雅 啓
代表監査委員 ————— 和 泉 澤 吉 国民宿舎事業管理者 ——— 知久馬 孝 紀

午前10時00分開議

○議長（牧田 武文君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は12名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の欠席者は、公務の事情により吉田総務課地域づくり担当参事、平井生涯学習課参事の2名であります。以上、報告いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（牧田 武文君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問は、4名の方から通告を受けておりますので、日程の順序によりこれを許します。

初めに、11番、杉原憲靖議員の第10次総合計画と町づくりについての一般質問を許します。杉原憲靖議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） おはようございます。

私は、第10次総合計画と町づくりについて町長に質問をいたします。

本町では、新しい町づくりの指針となる第10次三朝町総合計画を策定されました。今後10年間の町政の基本となるものであります。この計画では「心豊かでキラリと光る町」を将来像として掲げています。本計画に当たっては、住民まちづくり構想策定会議や三朝町まちづくり戦略会議、そして町民、中学生、高校生からの提言等の意見も集約されたものとなっているところがあります。

本町の将来像の中で、定住人口の目標があります。極めて重要課題であります。町の将来人口について、国立社会保障・人口問題研究所によると、10年後は6,000人前後と予測しています。本計画の達成年度、平成32年の定住人口を7,000人と想定されていますが、厳しい現実ではないかと思えます。大胆な定住対策が不可欠であり、思い切った婚活支援対策を推進するよう提言をいたします。現状認識と具体的施策について伺うものであります。

次に、基本計画にある観光、農林、商工業の振興、雇用対策の推進についてであります。それぞれ施策目標が5年後を目途に数値で示されていますが、私はより具体的に年次ごとに目標を定め、現状を認識することが必要だと思えます。所見を伺います。

特に観光業の推進についてであります。施策体系として、1つ、観光・交流推進体制の整備、2つ、観光交流資源の掘り起こし、3つ、誘客宣伝活動の強化が示されています。いずれも強力な推進と新しい発想が必要だと思えます。

また、地域資源から見る町の将来像として掲げられている温泉と健康の町づくりが極めて重要であると考えます。岡山大学三朝医療センター内で三朝ラドン効果研究が行われています。その成果に注目をしているところでもあります。経過と見通しについて伺います。

健康志向が高まる昨今、今、国内外の宿泊者数の促進と、あわせて現代湯治の強力な情報発信と安価で滞在できる具体的施策を展開すべきだと思えます。御所見を伺います。

次に、教育の充実についてであります。本町の教育の柱として「町民に開かれた教育行政をめざして」、また「子どもたちを町民が支える町づくり」をスローガンとして推進され、文武向上の成果を上げられているところでもあります。

しかしながら、人口減少と少子化の現実を直視すればするほど、最善の教育環境とは小学校3校を統合して将来の町の全体像を議論することが必要だと思えます。率直な御認識と御所見を伺います。

○議長（牧田 武文君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 杉原議員の第10次総合計画と町づくりについての御質問にお答えをいたします。

本町では、本年度から今後10年間の基本となる第10次三朝町総合計画を策定し「心豊かでキラリと光る町」を本町が目指す将来像に掲げ町政の推進を図っているところであり、この中で定住対策は極めて重要な課題としており、今年度、町外からの定住を促進するため、三朝町す（住む）ま（米）いる（居る）応援事業、「住む、米る、居る」という、これを「すまいる」というふうに申し上げ「す（住む）ま（米）いる（居る）応援事業」に取り組むこととしたほか、総務課地域づくり支援室を本町の定住対策の総合窓口とし、定住対策を積極的に進めていくこととしております。

議員御指摘のとおり、国立社会保障・人口問題研究所による本町の将来推計人口は、10年後の平成32年には6,175人となり、現在の人口より約1,000人減少すると予測をされております。その中であって、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口は10年後の平成32年は3,269人となり、約800人減少すると予測されているところであります。

私は、この生産年齢人口を増加させることが町の活力を創出することにつながっていくと考えており、子育て支援体制の充実や地域産業の振興と雇用の創出と確保、定住対策の促進などの施策を計画的に実施していくことで、10年後の町の人口が7,000人になるようにしたいと考えているところであります。

議員から、定住対策の一環として婚活支援対策を推進するようにと御提言をいただきました。私は、婚活事業については基本的に行政主体でなくて、民間主体で取り組まれるのが適当だと考えております。現在、県ではとっとり婚活サポート事業を実施されています。この事業は、結婚をしたいがなかなか理想の相手とめぐり会うことができない。そういった独身の方を対象にパソコンや携帯電話により登録をしてもらい、さまざまな出会いの場のイベント等を企画実施される企業等の情報を登録者の方々に情報提供されるというものでございます。町としては、このような事業をホームページや町報を通じて町民の皆さんに情報提供を行うなど、側面的な支援を行ってまいりたいと思います。

また、この事業に参加している企業等の中には、結婚披露宴等を行うホテル等もあるようですので、ブランナールみさきにおいてもその実施について検討してみたいと思います。

次に、総合計画の基本計画として定めている観光、農林、商工業の振興、雇用対策の推進に係る施策目標についての御質問にお答えをいたします。

議員御指摘のとおり、基本計画の中では5年後の平成27年度の施策目標を掲げ、さまざまな

施策を展開していくこととしておりますが、社会情勢の変化や財政事情などを勘案し、3年ごとの実施計画を作成すべく現在作業を行っているところであります。東日本大震災の影響等により、特別交付税などの国に依存をしている財源が不透明な状況ではありますが、できれば9月議会において年次ごとの目標数値も御報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

次に、三朝ラドン効果試験の研究についての御質問にお答えをいたします。

この研究は、平成21年度から岡山大学と日本原子力研究開発機構が共同で行われているものでございまして、ラドン温泉の適応症についての研究、主には高血圧そして糖尿病といったいわゆる生活習慣病などの疾患についての研究が進められております。この研究成果については、昨年の7月、三朝町内で行われた中間報告会、本年の3月に大阪市内で行われた講演会で、マウスを使った試験研究によってラドンを吸入することにより生活習慣病を抑制する可能性が強いことなどが発表されており、順調に研究の成果がまとまりつつあるようであります。今後、できるだけ早い時期に研究の成果報告を行っていただきたいと思いますと思っております。

現代湯治の情報発信等についての御提案もいただきました。医療と連携した滞在型の旅行プランである現代湯治は、平成22年春から13軒の旅館の参加によりスタートしたところですが、現在は15軒の旅館が参加をされております。この現代湯治を始めてから1年間、平成22年度の連泊利用者数はおよそ1万5,000人、そのうち医療機関を利用された湯治客は約90人でありました。国民の健康志向と相まって、観光ニーズも健康やゆとりを求める旅行がふえつつある中で、現代湯治プランのような健康増進体験、滞在型といった商品ニーズがふえてきており、三朝温泉の現代湯治も高い関心を持っていただいております。

また、健康情報等を専門に扱う出版社の取材を誘致し、現代湯治プランや岡山大学病院三朝医療センターでの温泉療法、熱気浴体験などのラドン温泉の健康効果などについても情報発信しているところであります。今後も引き続き県等関係機関と連携を図りながら、マスコミ等を活用した情報発信に努めるほか、幅広い年齢層の方々に利用しやすい宿泊料金での商品の充実について、旅館組合とも協議しながら取り組んでまいりたいと思っております。

最後に、小学校3校の統合についての御質問にお答えをいたします。

私としては、当面小学校3校の児童数が現在より極端に少なくなる、少人数になることはないと思われることから、平成18年8月に出された三朝町学校施設等検討委員会の答申を尊重して、当面は3校体制を維持したいと考えております。

将来、三朝町を担っていく子供たちがふるさとを誇りに思い生き生きと暮らしていくために生

きる力をはぐくみながら、確かな学力、豊かな人間性、社会性、健やかな心身をはぐくんでいけるような教育環境のあり方について、小学校の統合問題も含め、まずは教育委員会で十分議論をしていただきたいと考えているところであります。

○議長（牧田 武文君） 杉原議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） 今、答弁いただきました。特に定住人口問題の件でございますけれども、この国立社会保障・人口問題研究所の資料、数値のあれが、この第10次総合計画の後ろの方に数値で載っております。その数値の中で私が一番気にかかるというか、問題にしなきゃならない、先ほど申しましたけどもやっぱり婚姻率、この問題が、このことのあれが一番今現在問題ではないのかな。これまで子育て支援のあれで、非常に子育ての環境は本町においても保育料の軽減とか医療費の助成だとか、あらゆる手だてのあれで充実はしてきていると私も認識しておりますが、やっぱり一番もとになる婚姻、先ほど町長もおっしゃいましたけども、この婚姻率が本町の婚姻率、人口1,000人当たり数値で言いますと3.3という、こういう数値が出ております。私は、この婚姻率というのは人口が少ないという、例えば1,000人当たりという、本町でいえば7,000人というそのあれを設定しますと、分母が小さいと私は結構その比率というか数値のあれは高くなるもんだというそういう認識を持っとったんですけども、本町の場合、この中部圏域のその比較しても非常にその数値が低い。

ちなみに、県の平均では4.9という数値が出ています、婚姻率ですよ。倉吉市では5.5、湯梨浜町では4.8、北栄町では3.9、琴浦町でも3.8、本町が先ほど言いましたように3.3、こういう数値が出てる。やっぱりこの婚活というあれは、非常に今現在個人情報の問題だとかそういういろんな諸条件が大きく以前とは変わってきましたけども、やっぱりここのあれをクリアしていく手だてを考えないといけないのかな、このことを私は強く思うわけです。

婚姻率もそうですが、出生率ということになると県の平均値、その数値は本町でも示しております。ただ、今言いましたように問題はこの婚姻率、このことが一番私は大事ではないか。

これまでから、婚活支援のあれで結婚相談員だとかそういう手だてで以前取り組んできた経過もございます。結局そのあれも、その制度というかあり方自体も消滅をして、費用対効果という面で成果がなかなか出ないというそういう状況で消滅したその経過もございますが、やっぱりもう一度このところをしっかりとらまえていくという対策、政策といいますか、そういうことが大事ではないかなと思いますので、町長も今言われましたようにこれは行政が最後まで責任を持つそういった仕組みというのはなかなかとりにくいと思います。例えばやっぱり民間のきちっとした対応できる人、例えば名称的に言えば婚活大使といいますかね、そういったちょっとレベル

アップをした意味でのそういう人を人選なり検討して、そういう一つの施策も考えていていただきたい。この点について、町長、どのように思われますか。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 今回の御質問をちょうだいをして答弁をさせていただく中で、ブランナールの館長とブランナールでそういった機会をつくっていくということについて明言すること、事前に調整をしてかかりました。これは本町のみならず、他の周辺のホテル等の計画の中に婚活対策というものを掲げているホテルもあるものですから、そういう観点で町としてその拠点をどこへ置くかと考えたときに、やはり結婚式場を持ち、そういったお世話もしているブランナールで職員の研修も含めながらそういう対応に当たっていくことは当然の成り行きかというふうにも思って、事前に話をし合った次第でございます。

そして、地域に出かけていろんな懇談会に出かけますと、やはりどうしてもこのことが必ず出てまいります。そうしたときに私は、かつては親戚の中に結構世話焼きをされるおばさんがおられて、あるいはおじさんがおられて、あのおじさんおばさんに話しされ出したら結構長いぞというぐらいこの結婚ということについて御親戚の中で頑張ってきた、そういう状況が町内にも各村にもそれぞれあったと思っています。そういった風潮がもう一度帰ってこないのかなということも、非常に期待をする部分として思っているところでございます。自分の身内の結婚適齢期を迎えた男の子、女の子に対してのおじさんおばさんの役割、そういうこともこのごろ強く思っています。あらゆる機会を通して、このことについては話をし合っていきたいと思っております。

○議長（牧田 武文君） 杉原議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） 今、町長が言われたことも大事なことだろうなど。特に婚活支援というあれでは、やっぱり狭い範囲で考えるとなかなか成就し得ないという部分のものもあるかと思いますが、例えば本町にとりましてはやっぱり交流している海外の、例えば台湾の台中県石岡郷との交流、またフランス等の交流もあるわけですが、そんなに距離的に遠いフランスだとかというあれは、なかなか婚活というその部分のあれにはつながりにくいのかなと思いますけれども、例えば台湾あたりであればそんなに距離的なそういったものもございませんから、やっぱりもうちょっと国際的な広い範囲での部分もとらまえて検討していくということも一つの考え方ではないのかなと私は思いますけど、この点について、町長、率直な御意見。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 台湾の石岡郷、現在は石岡区でございますけれども、交流を始めて5年経過をいたします。今回も訪台を計画をしておるわけですが、向こうのかわられた区長さん

との間に、今後どういう形での交流を進めていくかということ話し合ってくるということを目標といたしておるわけですが、議員がただいま御指摘されたこのことにつきましても話を出してみたいと思っています。

ただ、生活習慣とかあるいは言葉のこととか、いろんなことで相当な状況をクリアしていくことになろうかというふうに思っていますが、現実にはそういう状況が県内はもちろんでございますけれども全国的にだんだんふえてきているこの状況は、是認していく方向でとらえていかなければいけないと思っております。

○議長（牧田 武文君） 杉原議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） 次に、観光促進のこの面でありますけれども、特に岡山大学医療センターでその研究が進んでおる。その経過を今お伺いいたしました。特に現代湯治、一般旅行者のそういった増加の促進もしていかなければならないわけですが、三朝温泉というのはやっぱりその現代湯治のあれが今後の一つの大きなかぎを握るのではないかな、こんなことを私は強く思うわけですが、実は5月のかかりに四国香川県の70歳代の御夫妻が我が家に訪ねてこられました。その方はもう既にお医者さんからがんの宣告をされた方で、余命が半年だと。6カ月の命だともう医者から言われている。私は手術はしない。若い息子から情報を聞いて、三朝温泉に行ってこいと、こういう息子の強い意思のもとに三朝温泉に来た。そういう本当のがんの宣告を受けられた、もう既に余命が半年だと言われるそういった方が三朝温泉という、そのがんとかかわり、そのあれは非常にやっぱり情報を聞いて、三朝温泉にかけると言ったら大げさな言い方ですが、そういった思いで三朝温泉を訪ねてこられる。その方は、5月の初旬から5月の末まで約1カ月足らず滞在をされて三朝温泉にゆっくり浸って、ともかく精神的なゆとりといえますか、余命の自分の人生をこの三朝温泉で過ごしていきたい、そんな思いで来たんだということをつくづく話して、この5月末に帰られました。

やっぱり私は、元気な方であっても病気にもうなった方であっても三朝温泉の効能、三朝温泉の湯治に対するその思いは、もっともっと私は掘り起こせばたくさんそういう人が国内にもおられるのではないかな、こんな強く意をしました。このことをやっぱり考えてもっともっと促進していけば、強い私は三朝温泉の力になり、それが一つの大きな発信源となっていくのではないかな。

御夫妻で来ておられますから、2人で滞在されると数十万円かかるわけですよ、期間的に1カ月足らず滞在されると。これがやっぱりもう少し安価なそういう滞在費用で済むなら、私はもっと促進といえますか、そういう方はたくさん来ていただける一つの道筋ができるのではないか

な、こんなことを感じましたが、これについて、町長。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 先ほど御答弁の中で申し上げた総務課の地域づくり支援室で、移住定住の関心の窓口に当面していきたいというそういうお話をした中に、ただいま申された方が役場を訪問されているのではないかというふうに思って、今のお話を伺いました。

現在、栃木県、京都、兵庫、そしていま一つ、大阪だったでしょうか、そういうところで6件ほど三朝へ住みたいというお話を受けているようではありますが、その中でお二方は現代湯治という形の中に入りたいという話をなさっているようでございまして、今、議員が御指摘されたように、滞在費がもう少し安くて滞在できるようなことはならんのかなということを、私たちの方側ももっと真剣に研究していかなければいけないなというふうに思っています。

研究をなさっている方に、がんと三朝温泉とのかかわりについて私が聞いている範囲で申し上げますと、がんが治るといえることは言い切れないと。しかし、がん細胞がふえていくのを抑える力は三朝温泉にはあるということをおっしゃっていますので、そういう状況の中で三朝温泉を求めておいでになる方が、現代湯治のプランの中に入ってくださっているということもあるだろうというふうに推測はいたしております。ただいまの議員の御提案は非常に貴重な御提案とあって、今後さらに内部でしっかり検討してまいりたいと思っております。

○議長（牧田 武文君） 杉原議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） じゃちょっと最後に教育問題について再度伺います。

町長は以前から当面は統合はしない、その方針は教育委員会なりそういった各種検討委員会等の意見を尊重するというそういうあれが強いわけですけども、これも第10次総合計画の最後の方に数値として載っております。これは21年の5月ですので、今は23年ですから既にもう2年が経過をしております。その状況を見ますと、小学校の児童数、教員1人当たりの児童数はどんなふうになっているかというそのことを見ました。小学校の児童数、県の平均では、これは小学校ですよ、教員1人当たりについて12.9人、倉吉市では11.5、三朝町では7.9、湯梨浜町では14.4、北栄町では16.9、琴浦町は8.8。本町の場合、教員1人当たり7.9人、これが町長、実態なんです。教員1人当たりですよ。中学校の場合は、大体この中部圏域でもそれほど差異はございません。やっぱり本町の適切な小学校の運営、あり方、小学校の環境ということを全体的な視野からとらえたら、やっぱりもう既に小学校を統合するその時期は既に来ているんだなということを、数字だけに私はこだわるわけではありませんけども、そういった状況のあれはしっかりとやっぱりとらえていかないといけない。やっぱり子供の数と教員の実態、その

1人当たりの教員の数はこれだけの子供のそういう数値になっているというこの実態を、これは考えなくてはいけないそういうあれではないかな。こんなふうに思いますが、このことについて、町長、どう思われますか。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 233平方キロの非常に広い面積を持っている私たちの町の学校の位置している場所、従前から相当真剣に検討されて、現在の3校という小学校の位置に7校あった小学校が3校になった。当時の学校統合の経緯等見ますと、やはり地域性。そしてその地域性の中に、それぞれの地域の一つの活力の源として小学校という場所を、位置を考えてきた歴史があるんじゃないかということも思っています。

なお、季節分校を含めて相当多くの分校もあったわけでありまして、これは車社会の到来によって寄宿舎等も廃止をされ、通学ができるという観点の中で分校はなくなってきております。そうした三朝町が昭和28年に誕生して今日までの間、まず初代町長が進められたのは学校統合であったと思っております。そういった過去の歴史の教訓にしっかりと目をやりながら、今後の統合問題について考えていかなければいけないというふうに思っていますが、先ほども申し上げましたように、まずは教育委員会でしっかりこのことについて議論をしていただきたいと思っています。

○議長（牧田 武文君） 杉原議員。

○議員（11番 杉原 憲靖君） なかなか町長の答弁も変わらないわけですが、やっぱり適切な教育環境というのは私はこれまでからずっと言っています。将来の町にとって人づくり、人材づくり、このあれが一番必要だし、将来の子供たちがやがて本町を守ってくれる、本町の社会を築いてくれる大きな存在だと思っております。そういう全体的な本町のことを考えた場合に、人づくり、人材づくりというのはやっぱりある程度競争力の中でその力を身につける、そういう環境というのが私は適切な教育環境ではないのかな、こんなふうに思います。

将来、一つの大きな町の全体像を見たときに、どういうことをするのが一番本町にとって適切であるかということをやっぱり真剣にもっともっと掘り下げて検討していただきたいな、こんなふうに思います。そのことを申し上げて、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 以上で杉原憲靖議員の一般質問を終わります。

○議長（牧田 武文君） 次に、4番、福田茂樹議員の一般質問を許します。

三朝保育園の新築移転についてを伺う、福田茂樹議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） 私は、今６月定例会において、町長に三朝保育園の新築移転について伺うものであります。

今から５年前、平成１８年６月に三朝町少子化対策及び保育施設等検討会が設置され、４回の検討会の後、平成１８年１０月３１日に少子化対策及び保育施設のあり方について答申が出されました。それは、分権時代に即した保育所のあり方と統廃合、民間活力の導入等、総合的な見直しについて、１つ、合理的運用が必要であり、分園等も視野に入れ段階的に統廃合を進められたい。２つ、保育の質を確保する観点から、民間活力の導入を図られたいというものであります。

また、三朝保育園の今後の整備の方法については、三朝保育園の老朽化は激しく、だれの目にも改築が必要なことは明らかです。早期の改築に向けて取り組んでください。

なお、改築の際には民間が参入する余地はないかを模索しながら、適切な規模と位置を定めてください。

また、園児数の将来見通しによる将来の近隣保育所との統合も可能となるような施設規模を考慮してくださいとうたっております。

また、議会でも、平成１９年１２月２０日に特別委員会であります学校施設等検討調査特別委員会の報告書が議長を通じて町長に提出されています。その中で三朝保育園と竹田保育園の老朽化を上げ、早急に賀茂保育園と竹田保育園の統合等を検討するとともに、東保育園と三朝保育園の統合なども視野に入れた検討をとっています。３年半前に、今ここにいる同じ議員がこの報告をしているわけであります。

そして昨年、平成２２年３月定例会で片柴バイパスの話が出てきました。東保育園の移転問題が発生をした。あれからはや１年３カ月がたちました。その間、産業民生常任委員会でたびたび関係課長から経過報告を聞き、昨年の１２月定例会で執行部の方針が全員協議会で示されました。さらにはことしの３月定例会の一般質問を受け、町長も議場で明言をされたわけであります。そして先月の５月２６日、三朝町議会臨時会が開かれました。山田委員長による保育所建設予定地調査特別委員会の最終報告であります。事前に全員協議会を経て、議場においてその最終報告がなされたわけであります。起立採決の結果、賛成５名、反対６名により特別委員会の最終報告は反対ということになりました。

各委員会を代表して出た我々特別委員会のメンバーは、１０年後２０年後の三朝町の保育を考えていろいろな角度から検討し、報告書を提出したわけであります。しかし、議員６人の反対、否決という結果に終わりました。非常に残念であります。一刻も早く新しい三朝保育園を建設してほしい。ここ１０年来の三朝地区の保育園の保護者、園児の願いであります。

そこで、なかなか先に進まない現状を憂い、町長に新しい提案をします。

早急に山田にある三朝保育園を移転、そして新築、場所はふるさと健康むらの川側の一角。私は、もうこれ以上新しい三朝保育園の建設を待てない。特別委員会も既に解散をしました。大瀬に住んでおられる三朝保育園の保護者及び保育園児、また横手、山田、三朝、砂原、大付の三朝地区におられる三朝保育園の保護者、保育園児。今後将来、三朝保育園に通われる方々のために、一日も早くこの三朝保育園の移転、新築を強く求めます。三朝地区の方々は、十分に待たされました。限界を超えています。私が議員として10年、事あるごとに地区の人から言われ続けてきた事

3月定例会で議会が認めた平成23年度の予算、その中にあります新しい保育園を検討するプロポーザルの予算、速やかに実行するよう強く求めます。そして、新しい三朝保育園に対する現在の町長の考えを伺うものであります。

○議長（牧田 武文君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 福田議員の三朝保育園の新築移転についての御質問にお答えをいたします。

三朝保育園の改築につきましては、三朝町少子対策及び保育施設等検討会及び学校施設等検討調査特別委員会の答申及び御意見を考慮しながら、議員御指摘のような経過を経て三朝保育園と東保育園の統合も視野に入れながら、その運営方法、幼保一元化の可能性、建設場所、財源等について検討してきたところであります。

そして、両保育園の保護者の皆さんへの説明会や地元地域協議会への説明会等を経て、今年3月の定例会において三朝保育園と東保育園を統合する、建設地はふるさと健康むらとすることを前提に、新しい施設にどのような機能があればいいか、子供たちや保護者の皆さんにとって快適な施設にするためにはどのような環境を整えればいいのか、さらには保護者の方から選んでもらえるような施設になるにはどうしたらいいかということについて、議員の皆さんを初め地域の皆さんや保護者の方々の御意見を伺いながら検討を進めていきたいと表明したところであります。

議会におかれましては、今年3月に保育所建設予定地調査特別委員会を設置され、保育所の統廃合と新設の保育所建設予定地について調査研究を進めてこられました。そして5月26日の臨時会において、東・三朝保育園を統合して、横手地内に新保育園を建設との結論に至ったとの委員長報告がなされましたが、議会におかれましてはこの最終報告を否決されました。このたびの議会の議決は、当然尊重すべきであるということは十分承知しているところであります。

議員御指摘のとおり三朝保育園の老朽化は激しく、地域の皆さんや多くの保護者の皆さんが一

日も早い新築を望んでおられることは、地元説明会や保護者説明会に出かけた際にもお聞きしているところであり、三朝保育園の改築は急務であると考えております。

新しい保育園を検討するプロポーザルの予算の速やかな実行について、御提案をいただきました。私は、5月26日の臨時会での議決を踏まえ、白紙の状態に立ち返って改めてこの保育園問題について考えてみました。保育園は学校のように校区がありませんので、一般的に町内どこに住んでおられる方でも町外の方でも、三朝町内の保育園に入園することができます。つまり、今我々が一番に考えなければならないのは、子育てするなら三朝町でと言われるような子育て安心の町づくりを進めることであり、そのためにはぜひ子供を入園させたいと町内外を問わず多くの方々に思っただけのような保育園、子育て施設をつくることだと思います。このためには、ある程度の規模の施設でなければならないと考えます。

5月26日の臨時会で、保育所建設予定地調査特別委員会の委員長報告に対する反対討論の中で、統合が予定されている保育所の配置を含めて、まずはラーバンルネッサンス計画の見直しをすることが先決問題であるとの御指摘がございました。御承知のとおり、東日本大震災の影響等により三朝温泉街は今大変厳しい状況にあります。私は、三朝温泉の活性化のためには、まずこの温泉街の復興を中心に考えていくことが急務だと考えており、将来的にもこの温泉街を観光客の方々にとって魅力あるエリアにしていくことが重要だと考えております。

したがって、ふるさと健康むら周辺は温泉施設を核とした観光エリアではなく、福祉、子育てという観点を盛り込んだ新たな健康、医療、にぎわい文化ゾーンとして活用することがふさわしいと考えております。

このようなことから、子育て担当課であります町民課において行おうとするプロポーザルについては、新しい子育て施設の建設も含めしっかりと魅力的な子育て施設にするためのさまざまなアイデアを伺った上で、先ほど申し上げたようなゾーンとして基本構想について募集させていただきたいと思っておりますので、御理解いただきますようよろしくお願いをいたします。

また、プロポーザルをする思いの中に、福祉、子育ての観点を盛り込んだ新たな健康、医療、にぎわい文化ゾーンのイメージ、幼児教育と保育機能をあわせ持つ幼保一体型の新たな施設を設置し、隣接する福祉センターに通われる高齢者の方々との交流や温泉利用、子育て支援センターの設置、また三朝温泉病院との連携、ふるさと健康むらに隣接する山を活用した遊歩道や森の中の遊び場、グラウンドゴルフ場の整備、ゲートボール場も含めたことにならないかなども視野に入れながら、豊かでたくましい子供が育つ環境をつくり上げていくためのプロポーザルをぜひさせていただきたいとお願いをする次第でございます。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） 今、町長から、最後にいろんなことを考えたプロポーザルをやりたい。私は、ぜひやっていただきたいというふうに申し上げます。なぜか。私は６人の反対者、今回の一般質問でそれぞれの思いを持って、町長に保育所に対する考え方を示して、示してやるべきだと当然思った。６人だれ一人それがいない。これが現状ですよ、町長。私は非常に腹立たしい。何を考えているのか。その中で、私は町長に新しい提案をしたわけです。

今、プロポーザルの話が出ましたけども、今６月の会期中であります。ぜひとも我が産業民生常任委員会に担当課、企画観光課なり町民課なりのそれぞれの先ほど言われた大ざっぱな考え方でもいい、ぜひ出していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 御要望の委員会に、担当課長から現在の検討状況について申し上げさせていただきます。

なお、ラーバルネッサンス計画の一部その施設についてのその後の考え方、そして三朝温泉街の今後の整備のあり方等につきましても、企画担当課長から委員会の中で現段階の状況について報告をさせたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） 今の前進みしない状態、これは打破していかなくちゃいけない。待ったなしの状況であります、町長。ぜひとも我々の委員会に提出していただき、我々の委員会の中で議論をしていきたいと私は思っています。

そもそも今の三朝町の人口、１０数年来で１，０００人からの人口が減った。７，０００人を維持している状況にあります。先ほどの杉原議員とのやりとりの中でもありました。１０年後、６，０００人ちょっとになるであろう。園児の数も子供の数も含めて、大体５０人台で推移して。昨年２２年度、ついに４０人を切った。こういう状況に三朝町はあるわけです。となれば、保育園はどういうのが適当か、これはもう一目瞭然だと私は思っております。今の賀茂保育園が大体１２０人の定員を持っております。満杯です。入所を断っている状況になっております。それは民間委託して、町内のいろんなところから、竹田地区を初め三徳地区、小鹿地区それぞれから皆さんにあすこに通っておられる。それが今入れない状況にある。ぜひとも健康むらへつくる新しい保育園は、先ほど町長が言われたように町内外からでもいろんなところから来れる、ぜひ来たい、そこに行きたいという保育園をぜひともいろんな面を考えて提案していただきたい。いかがですか。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 町内にお勤めになって、町外からおいでになっているさまざまなお仕事についていらっしゃる方、こういう方との意見交換も若干いたしております。夜の保育、そういうことにつきましても、今回の計画の中では可能ならしめる方向で対処していかねばいけないのではないのかというようなことも含めて、委員会等でしっかり御議論賜りたいと存じます。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） 今回の臨時会で否決されたことにより、新たに議会からは新しい保育園に対しての提案は出ません。もう出せません。それぞれでまた各論が変わってくるからです。それは事実であります。しかし、私は臨時会の後の全員協議会で皆さんに確認をした。2名を除いて、10名の方は1つでいいというふうに述べておられます。これは確認をいたしました。ぜひとも新しい三朝保育園に向かって邁進していただきたいと思います。最後に一言。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） ただいまの御意見は参考にさせていただきたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） 以上で終わります。

○議長（牧田 武文君） 次に、みささ土曜楽校についての質問を許します。

福田茂樹議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） では、教育長にみささ土曜楽校の存続について伺います。

平成14年度から始まったみささ土曜楽校が今年度から中止になっています。また、みささ南土曜楽校は地域協議会に委託され、別の形で行われています。平成22年度のみささ土曜楽校は、ワクワク体験クラブ、生花、茶道クラブ、書道クラブの教室から成り、夏休み企画として集まれ冒険隊、学力アップ講座、そのほかワクワク宿泊体験塾を開催しています。延べ子供の参加人数616人、指導ボランティア120人、保護者等の協力者152人、ほか職員43名、計931人です。本年度の予算で一部の行事は単独で残っているものもありますが、なぜ土曜日の子供たちを支える事業がなくなったのでしょうか。

そもそもこの取り組みは、学校週5日制に伴い週末を何もしないで過ごす子供たちの受け皿として教育委員会、学校、地区公民館が主体となって始まったものであります。地域の子供は地域が育てると言ってるではありませんか。何とか方法を見つけて、みささ土曜楽校を存続させるべきではないかと思います。指導者やボランティアの不足、活動のマンネリ化、子供たちの参加人数の減、資金の問題等いろいろあるかと考えているわけですが、何とか英知を絞り、ここ

でその灯を消さないでもらいたい。教育長の見解を伺うものであります。

○議長（牧田 武文君） 答弁、山口教育長。

○教育長（山口 博君） 福田議員のみささ土曜楽校についての御質問にお答えいたします。

福田議員御指摘のとおり、今年度みささ土曜楽校を中止しております。中止について詳しく申し上げますと、今回は毎月開催しておりますワクワク体験クラブの事業、それから生け花、茶道、書道というふうなものを中止しております。集まれ冒険隊キャンプ、それからワクワク宿泊体験塾、かがやく子どもフェスティバルのイベントは引き続き開催することにしております。

私も福田議員と同様、土曜楽校は青少年育成に果たす役割は大きく、ぜひ継続すべき取り組みであり、灯を消してはならないと考えております。

みささ土曜楽校は、平成14年に福田議員御指摘のように全町児童を対象に開設し、その翌年、みささ東土曜楽校、みささ南土曜楽校を増設して3校体制で平成18年まで続けてまいりました。平成19年度に東の土曜楽校が廃止となりまして、以後、みささ土曜楽校、それから南土曜楽校の2校体制で今日に至っておるところでございます。

この土曜楽校の開設は、平成14年度当時、先進的な取り組みとして県内外で大いに注目を集めた取り組みでもありました。小学校1年生から6年生を受け入れる9年間にわたる土曜楽校の取り組みは、多くのボランティア、指導員に支えられ、所期の目的を十分に果たして町内に定着した事業と認識しております。

各学校の運営体制を見ますと、南土曜楽校の運営は先ほど御指摘のように竹田地域協議会へゆだねられ、みささ土曜楽校は教育委員会事務局が全面的に運営してまいりました。

運営に関する課題としましては、近年みささ土曜楽校のワクワク体験クラブ等の参加者が西小児童に偏重しており、1校区のために教育委員会が直接企画運営することの問題や事業のマンネリ化等もあり、この際、外部の皆さんのお力をかりて新しい発想のもとで再出発してはと考えた次第でございます。

このような諸点をいろいろ反省し、土曜楽校の事業の一部を地域協議会やNPOなどの外部組織にゆだねるべきと判断し、今年度は教育委員会が直接実施しておりました事業のうち毎月やっておるものにつきましては中止することといたしました。教育委員会としましては、NPO法人等の外部組織による土曜楽校の継続開催に向け、外部運営組織の確保やJA中央によりますアグリキッズスクールなどの代替事業を模索してまいりましたが、資金面あるいは学年制限等で有効な代替策を得るに至りませんでした。代替運営の決まらないまま土曜楽校の一部とはいえこれを中止したことは、引き続き参加を期待しておりました児童や保護者に大変迷惑をおかけしたこと

をおわびしなければならないと思っております。

体験が重視される現在、土曜楽校の有用性、効果を考えたとき、福田議員御指摘のとおり英知を絞り種々の問題を解決し、地域の子供は地域が育てるとの思いで引き続き外部の運営組織を求め、土曜楽校再開を目指して努力してまいりたいと思っております。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） 今回、教育委員会が手を放したということであります。外部の力に依存したかったけど、その相手先がなかったと。それというのは、予算をつくる段階ですずっと検討していく。検討した結果、そのNPOなりがなかった。なら、もう一回教育委員会が見るといふ形にするのが普通だと思いますが、いかがですか、教育長。話がちょっと違うような気がするんですけど。

○議長（牧田 武文君） 山口教育長。

○教育長（山口 博君） 議員御指摘のとおり部分もございしますが、私どもとしましては子供たちの参加人数の偏在、あるいは私ども教育委員会がこれまで運営してまいりましたが、月2回の運営に当たりましては、担当者が1回が済むごとに大変な努力をして次の運営を準備したりするというので、すごく手間をかけてこれを運営してまいりました。同じようなことを繰り返すこと自身を、できれば外部の力の助けをかりてその運営をスムーズにしたいなというふうな思いで、今回私どもがまた引き取るということはしておりませんでした。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） 先に検討してから、そういう団体がないか。確かにえらいかもしれませんが、教育委員会、その職員の人。しかし検討して、なかったらどうするかということを考えなきゃ本来はいけない。なかったら、じゃやめる。これじゃ教育委員会として子供たちを育てるということにならないんじゃないですか、教育長。

○議長（牧田 武文君） 山口教育長。

○教育長（山口 博君） 確かに福田議員御指摘のとおり、そこについては非常に反省しなきゃならない点だと思います。

私どもとしましては、NPO法人等に御相談申し上げて資金確保等にいろいろ奔走したわけですが、残念ながらその成案を得るに至らなくて、結局は4月にそのまま引き続いての再開ができなかったということは、これは非常に大いなる反省をしながらおるところでございます。その点、御指摘甘んじて受けたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） ここに２２年と２３年の予算があります。平成２２年度の予算、地域が育てる子ども総合対策事業９９万６，０００円、その中に土曜楽校が入っている、一部に。ことし、同じく地域が育てる子ども総合対策事業７２万６，０００円、２０数万円が土曜楽校の費用ではないかと思いますが、それでいいですか、考え方としては。

○議長（牧田 武文君） 山口教育長。

○教育長（山口 博君） 御指摘のとおりでございます。放課後子ども教室支援事業につきましては１００万円の予算の中で、約３０万円をそこに使っております。（「土曜楽校」と呼ぶ者あり）土曜楽校が使っております。御指摘のとおり間違いありません。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） これを見ますと、教育長、予算要望されたんですか、こちらに。財政に。私たちは土曜楽校をしたい、先ほどしたいと言っておられましたね。じゃこの事業をやるから、予算くれと。さっき資金面でどうのこうのと言っておられましたから、予算が欲しいと予算要望されたんですか、教育長。

○議長（牧田 武文君） 山口教育長。

○教育長（山口 博君） 今御指摘のように、私どもはこの土曜楽校を続けるべきだという思いは持っておまして、予算等には反映すべくいろいろ努力といたしますか、いろいろ各方面でこの事業を進めるかどうかについて検討はしました。

先ほど言いましたようにいろいろな面、ボランティアの問題、それから……（「予算要望したかどうか」と呼ぶ者あり）予算要望も中には入れているいろいろ協議をした結果で、総意のもとにこの結果が出たというふうに御理解いただきたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） ということは、予算要望したけど通らなかったということに判断がなるわけです。

議長、ちょっと通告にないんですけども、予算のことはこちらの方になります。町長に質問してもよろしいでしょうか。

○議長（牧田 武文君） 通告にありませんが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

通告にありませんので、また後で。

○議員（４番 福田 茂樹君） いや、今聞きたいんです。だけえ議長にお願いしてるんですよ。

○議長（牧田 武文君） よろしいでしょうか、町長。

○議員（４番 福田 茂樹君） 予算はこちらの了解にありますから、予算はこちらの方が決めら

れますから町長にちょっと聞きたい、そのことについて。議長にお願いしてるんです。

○議長（牧田 武文君） はい。だからよろしいでしょうか、町長。（発言する者あり）いや、通告にないもんですのでね。

○議員（４番 福田 茂樹君） だからお願いしとるじゃないですか。（「だけん町長の了解があれば町長がしなる話だが」と呼ぶ者あり）

町長に聞いてもいいですね、今から聞きますから。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○議員（４番 福田 茂樹君） 聞いていいかどうか。

○議長（牧田 武文君） ええ。ちょっと済みません、これから聞くということですので。

福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） 予算のことですので、町長に一つ聞きたい。

教育委員会はこの事業をやりたいという思いで予算要望したけど、結局はつかなかった。なぜつかなかったんですか。この事業が必要ないというふうに判断されたわけですか、町長。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 去年もやっとなので、ことしもやりたいと。こういう子供たちに対してこういうことをやりたい、その熱い思いというようなものがやっぱりなかったですね。ですから結果的にこういう形になっておりますけども、やはり子供たちの声というのはまさに声なき声でありますから、子供たちが今一番願っていることは一体何なのか。このあたりを含めながらしっかりとプログラムを立てて、そして子供たちをしっかりと教育していくという理念に基づいて堂々と、わずかな予算でなくて、しっかりと構えるというそういう姿勢が極めて重要というふうに思っています、私は。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（４番 福田 茂樹君） ここに平成14年からのみさき土曜楽校のカレンダーがあります。コピーしていただきました。ずっと頑張ってきた。ことしに限ってその熱意がなかったということに判断すればいいのか。教育長がその予算規模がちょっと足らなかったじゃないかと、100万規模200万規模でこれらのプログラムはするという大きな声で言われたら、町長、ならつけたるがなというような判断をされるというようなことでありました。人が足りないんなら町長がつけてやると、こういう思いで子供たちにしっかりとやれという今声ではないかと私は思っております。

土曜楽校は本当に運営は大変だというふうに認識をしております。しかし、町内を含めて、町

外でも構いません、1時間でも2時間でも人のためにちょっと何か手伝いをしてあげたい、私もしたいという思いの方はたくさんあると思うんですよ。ただ、その人に今光が当たってない、現実がですよ。私でもそうで、ほかの議員でもそうですけど、おじいさんおばあさんもそうです。自分の知識を生かしたものを、少しの時間でいいならその方々に協力したい。ましてや子供です。こういうシステムを本来はつくっていかなくちゃいけない。であるならば、既存の教育委員会だけにとどまることなく、いろんなところからそのアイデアは募集しなくちゃいけないし、いろいろな組織に対して提案を求めていくのが教育委員会の立場であり、予算をつけるのは町長の立場だというふうに私は思っております。

ぜひとも小学校の子あるいは小さい子を、やはり10次総の中にもあるじゃないですか。本町では子供たちのあすはまさに町の将来だと考え、町全体が一丸となって子育て環境を整え、子育てをするなら三朝町でと言われ続ける町づくりを進める。このことをやはり進めなくちゃいけない。20何万がどうのこうのではなくて、土曜楽校のあるべき一つかもしれないですけど、それは教育委員会あるいはこちら町長側どうのこうのではなくて、町全体でこれを新たな考え方のもとに進めるべきだと私は思っております。

最後に、町長と教育長からそれぞれ一言ずついただいて、私の質問を終わりたいと思います。これはぜひ実行していただきたい。

○議長（牧田 武文君） 山口教育長。

○教育長（山口 博君） 福田議員の温かい言葉といいますか、力強い後押しの言葉ありがとうございます。

また、先ほど町長の方に私が強く求めなかったからではないかということですが、これは我々事務当局がいろいろ検討した結果、今回は外部の人をお願いしようという結果であって、予算の中ではいろいろやりとりがあったことは事実ですが、そのような結果でこのような外部の方をお願いするというふうなことになりました。

これから外部の受け皿の確保に向けて全力で取り組んでまいって、三朝町の子供たちにいい環境を与えたいと思います。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 子供たちへのそういう機会とチャンスは公平に行き渡るような、そういう形を構築していきたいと思っております。

○議長（牧田 武文君） 福田議員。

○議員（4番 福田 茂樹君） 以上で終わります。

○議長（牧田 武文君） 以上で福田茂樹議員の一般質問を終わります。

○議長（牧田 武文君） しばらく休憩をいたします。再開を11時25分といたします。

午前11時17分休憩

午前11時25分再開

○議長（牧田 武文君） 再開いたします。

次に、1番、清水成真議員の一般質問を許します。

三朝町における危機管理の状況について、清水成真議員。

○議員（1番 清水 成真君） 私は、このたび三朝町における危機管理の状況について町長に質問をいたします。

まずもって、3月11日に発生した東日本大震災の被害者の皆様の御冥福と、被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願うばかりであります。

さて、この未曾有の大震災後、日本における危機管理のさまざまな問題点が浮き彫りになりました。既に御存じのように、震災とそれに伴う大津波によって甚大な被害を受けた東北地方であります。同時に福島原発事故により日本の安全神話までもろくも崩れてしまったと言えるのではないのでしょうか。

本日、6月14日で大震災から3カ月の歳月が過ぎました。お亡くなりになった方、行方不明者は2万5,000人弱にも上ります。急ピッチで幹線道路や主要の鉄道などの復旧が進められ、新幹線も開通し明るい兆しも見えているところですが、被災者の生活復旧となると約10万人もの方々たちがいまだに避難所生活を強いられているのが現状であります。

このことに対し、天皇陛下は被災者に向けたお見舞いのお言葉の中で、何にも増してこの大震災を生き抜き、被災者としてのみずからを励ましつつこれからの日々を生きようとしている人々の往々しさに深く胸を打たれていますと述べられました。

また、菅総理は、お盆までに全被災者が仮設住宅に入れるようにすると明言もされ、期待をしているところであります。

町長におかれましても、大震災後さまざまなことを感じ考えられたと思いますが、まずはその思いをお聞かせください。

さて、今回の大震災で日本が失ったものは実に大きく、2万人をはるかに超える人命や莫大な経済的損失であります。福島原発事故の今後では、その額は算出できないと言われております。

しかし、一方では、失われてしまったと思っていたものが実は全く失われていなかったことに気づかされました。それは復興への勇気と忍耐という日本人独特の特性でありました。そのような姿をメディアで見ると、私たち日本人のすばらしさを改めて認識をいたしました。

さて、我が町三朝町に目を向けてみると、これまで何百人、何千人も一度に亡くなるという甚大な被害はありませんでした。しかし、三朝町では何年にもわたり防災に対するさまざまな訓練を行ってきました。特に、原子力防災訓練は毎年行ってまいりました。鳥取県総合防災訓練を初め、国民保護法に基づいた訓練も行っています。また、各家庭においても火災報知機設置が義務づけられ、その設置状況は鳥取県の中でも高い水準にあるなど、他の市町村より町民の防災意識は格段に高いと認識しますが、町長の見解をお聞かせください。

危機管理は災害が起こってからどうするというのではなく、災害というものはいつでも起こり得ることを想定し、訓練することであると言われていています。そこで、幾つか質問をいたします。

1つ、平成16年11月に策定された三朝町災害時初動対応マニュアルは策定してから7年が経過していますが、見直しが必要ではないでしょうか。

2つ、先日、防災無線が使えなくなったアクシデントがありました。幸いにも火事などの災害がなかったわけですが、万一発生したとき防災無線以外に町民に対する的確な情報伝達の方法はどのようになっているのでしょうか。

3つ、災害に対する町民の危機管理意識の啓発は、現在広報みさき等での啓発のみですが、他の啓発活動は考えていないのでしょうか。また、町民参加の防災訓練は適切に行われているのでしょうか。

4つ、一般家庭用防災マニュアルはいまだに作成していないと思いますが、避難場所としての公民館などの耐震性などは調査されているのでしょうか。

5つ、水道対策マニュアルが策定されていますけども、広域災害の場合、復旧工事に時間がかかると考えられます。断水が長時間続く場合の対策はどのようになっているのでしょうか。

6つ目、防災用の携帯電話、緊急時災害優先電話は常に持ち歩いておられると思いますけども、どのように日ごろ管理されておられますでしょうか。

7つ目、三朝町職員のパソコンデータの情報管理は三朝町情報セキュリティーポリシーを定めて管理されていますが、今回の東日本大震災のような災害が起こった場合、住民基本台帳や戸籍などのバックアップは大丈夫でしょうか。以上、質問をいたします。

○議長（牧田 武文君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） まず、東日本大震災でお亡くなりになった方々の御冥福をお祈りすると

ともに、被災地の復興、そして被災された方々と福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされている方々が、一日も早く平常の生活に戻られるようになることを心より願っております。

このたびの大震災についての私の思いはどうかとの御質問をいただきました。

このたびの地震は、マグニチュード9という観測史上最大規模のものであり、東北地方を中心に南北500キロの広範囲にわたり長時間の揺れが観測され、最大遡上高が40メートルを超えるほどの大津波、さらには福島第一原子力発電所の事故と、世界でも例を見ない未曾有の大災害でありました。

このたびの大震災に際し、私はまず最も住民に身近な立場にあり最前線で住民の生命、財産を守らなければならない市町村の役割の重大さ、市町村長の責務の重さを痛感いたしました。私も先般、機会がありまして宮城県の仙台市に行ってまいりました。まさにいまだ復興途上でございます。岩手県陸前高田市のように、津波で市庁舎が壊滅的な被害を受け市役所機能が一時麻痺してしまった自治体、岩手県の大槌町のようにこの震災で町長が亡くなられた自治体もありました。また、宮城県南三陸町のように防災対策庁舎で危険を顧みず防災無線で住民に避難を呼びかけ、亡くなられた職員もありました。それでも市町村長がしっかりと前を向き、ともに頑張っていくんだと強いリーダーシップを発揮され、今も復旧復興に向けて頑張っておられる首長の方々に敬意を表します。

大地震と津波で沿岸部の集落が壊滅的な被害を受け、さらに福島第一原子力発電所の事故によって放射能汚染拡大の恐怖に見舞われた福島県相馬市の立谷秀清市長は、最低米とみそ汁があれば生きていける。よって、ここで籠城しながら頑張ると籠城宣言をし、被災住民の救済と地域再建に向けて強烈なリーダーシップを発揮されていますが、その勇気と決断力、実行力には本当に頭の下がる思いであります。

また、平常時の防災教育の重要性も強く感じました。岩手県釜石市の小・中学生は、津波警報と同時に決められた場所に避難しましたが、押し寄せる津波の勢いを見てさらに高台に避難をしたそうです。子供たち自身で判断し、中学生が不安がる小学生を誘導して迅速に対応したといます。三陸地域には、津波が来たら家族の心配をしないでそれぞれ高台に逃げるのが結果的に家族が助かる道だという教えがあるようですが、このような教育が小さいときからなされているということがとても大事なことだということを改めて感じたところであり、本町でもそういった自助、共助についての教育を進めていきたいと思っております。

次に、町民の防災意識についての御質問にお答えします。

本町では、平成17年に国民保護法に基づく避難訓練を全国で初めて実施しており、その後も18年には余戸集落、19年には今泉集落、20年には穴鴨集落、21年には砂原集落、22年には東小鹿集落、そして今年度は坂本集落で水防訓練等とあわせて実施する予定であります。なお、最初に行った村は吉田でございました。

また、平成19年度にはマグニチュード7.2、震度6強の地震が早朝に発生したとの想定で、初動対応、職員の参集、災害対策本部の設置運営、住民避難、避難所設置及び運営、災害時対応、孤立集落住民の搬送、航空偵察といった大規模事故災害対処訓練を実施しております。このようなことから、町民の皆さんの防災意識は全般的に高いものと認識をしております。また、防災についての意識啓発については、消防団の皆さんに大変大きな役割を果たしていただいていると思っています。例えば住宅用火災報知機については、消防法の改正により今年6月に設置が義務化となりましたが、町内の設置率が約90%と県下で最も高い設置率となっております。これは消防団の皆さんが、昨年度からその設置の必要性について各戸を回り広報された地道な努力のためのものであり、その活動について大変感謝しているところであります。

ことしの5月には、三朝温泉街において火災が発生しました。風の強い日でありましたので私も大変心配いたしました。火災報知機が鳴っていることに家の人気がつかれ、大事に至らなかったといったことがありました。今後も消防団や地域の皆さんに御協力いただきながら、防災意識の向上に努めてまいりたいと思います。

続いて、町の危機管理の状況について幾つかの御質問をいただきました。

まず、三朝町災害時初動対応マニュアルについては、昨年度に土砂災害警戒情報伝達マニュアル、停電対応マニュアルを追加するなど、災害時に的確に対応できるよう見直しをしているところでありますが、改めて精査してみたいと思います。

防災無線が使えなくなった場合の対応についての御質問をいただきました。

現在の防災無線は、農村情報連絡施設として昭和60年の10月に開局しましたが、約25年が経過しており、機器等が老朽化しております。去る5月16日、中継局の故障により防災無線が一時機能しないという事態となりました。町では緊急対応として消防団の皆さんや全区長さんに現在の状況について速やかに連絡するとともに、NCNや広報車、トリピーメールを利用して町民の皆さんに広く情報提供を行ったところであります。

しかしながら、このようなことはあってはならないことですので、今後仮にこのような故障が発生した場合でも早急な対応が可能になるよう、万全の措置を講ずることが必要であると判断し、年間を通じて保守業務を専門の事業者へ委託する経費を、また通信システムの高度化と周波数の

有効利用を目指すデジタル方式への改善を進めるための経費をこのたびの補正予算としてお願いしているところであります。

啓発活動についての御質問もいただきました。

町では、町民の皆さんの危機管理意識の向上を図るため、広報みさきはもとよりハザードマップの全戸配布や民生委員の皆さんを対象とした研修会、三朝大学での本年5月に実施をした講演会などを行っています。また、各地域協議会や集落単位での訓練、講習会についても積極的に実施していただけるよう、働きかけてまいりたいと考えております。

一般家庭用防災マニュアル、及び避難場所としての公民館の耐震性能調査についての御質問もいただきました。

私は、家庭用マニュアルをつくることより町民の皆さんにはまず町や各集落等で実施する訓練に参加していただくことなどにより、危機管理意識を高めていただくことが重要と考えております。また、バンビセンターや竹田公民館等は2階建ての建物でありますので、耐震性については調査しておりませんが、災害の状況によって適宜避難所として使えるかどうか判断しながら対応していきたいと考えています。

広域災害時の給水対策についての御質問もいただきました。

本町における給水は、上水道と簡易水道で対応しています。

まず、上水道の給水人口は1万2,000人、一般町民が6,000人、宿泊客が6,000人となっております。上水道の配水池は7カ所あり、そこでは合計3,250立方メートルの水が貯蔵できますが、これは上水道区域全体で約11時間の給水量に当たります。災害時で停電になった場合は、発電機により配水池に水を補給しなければなりません。災害時における水道の応急対策業務に関する協定を、中部1市4町と社団法人鳥取県観光事業協会中部支部及び中部観光事業協同組合とで締結しておりますので、この協定に基づき速やかに応急復旧作業等の対応をしていただくこととしておるところであります。

また、簡易水道については現在35施設がありますが、災害等により断水状態となった場合には町が保有している2トン及び5トンの給水タンクや、20リットル入りのポリタンクで断水区域に補給することとしておりますし、現地の復旧作業等についても先ほどお話ししました協定に基づき対応していただくことにしています。

さらに、連携備蓄用の保存水について、備蓄目標数に対する整備率が100%になるよう、このたびの補正予算でお願いをしているところであります。

また、町内で飲料水の給水が困難な場合には、県または近隣市町村に対して応援要請を行い、

町民の皆さんの水の確保を行うこととしています。

防災用の携帯電話の管理についての御質問もいただきました。

防災用携帯電話は計5台あり、そのうち2台が災害時等優先電話であります。この電話は、町長と危機管理室職員が常時携帯しており、緊急連絡用として活用していますが、このたびさらに1台を災害時等優先電話として使用できるようにし、建設水道課に配備することとしております。

最後に、住民基本台帳、戸籍のバックアップについての御質問にお答えをいたします。

まず、本町では住民基本台帳につきましては鳥取県情報センターのシステムにより運用しており、鳥取県情報センターでバックアップデータを保管、管理していただいております。

また、戸籍につきましては、戸籍法第8条の規定により正本と副本を設け、副本は法務局に保存することと定められております。倉吉の法務局であります。

このたびの東日本大震災では津波等により役場自体が全壊し、役場に保管していた各種データがなくなってしまったという事例が発生しておりますが、法務局保存のバックアップデータにより戸籍業務が行われていると伺っております。

したがいまして、現時点では鳥取県全体で壊滅的被害を受けるような大災害が発生しない限り、情報管理については問題ないものと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。（発言する者あり）

給水タンクの2トンの次に5トンと言ったようではありますが、0.5トンの誤りでございますので訂正をしていただきたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 1番、清水議員。

○議員（1番 清水 成真君） 三朝町災害時初動対応マニュアル、このたびちょっと見直しをされる、精査したいということでございました。これは職員の方全員がすべて把握をされておられるという認識でよろしいですか。

○議長（牧田 武文君） 町長。

○町長（吉田 秀光君） その認識で大丈夫と思っています。

○議長（牧田 武文君） 清水議員。

○議員（1番 清水 成真君） 初動マニュアルの中に継続事業みたいな、今、大震災後いろんな市町村が事業継続計画というものを策定するような動きがあります。BCPというようなことなんですけども、これは企業が大体にしておったものなんですけども、事業継続計画というのは今全国の県や市町村も導入、作成を非常に急いでやっておられます。多分、恐らく三朝町はまだ策定はされておられないと思いますけども、これは自治体や企業が自然災害や大火災、それからテロ行

為などの緊急事態に遭遇した場合、事業、資産の損害を最小限にとどめるために策定をするものであります。例えば、役場がすべて機能がなくなってしまう。じゃどうするのか。別個にそれを決めておくわけですね。例えば中学校にすぐに役場の機能が復興できるような体制をとっておくとか、そういうものであります。それから、優先して継続復旧すべき中核事業、何が最初に優先しなければいけないのかということをもっと最初にもう決めておくということですね。それから緊急度、復旧すべきものの目標時間、これを何分何分、何日後に復旧するということも最初に決めておく、それが言うならBCPというようなものであります。そういうものをやはり我が三朝町もどんどん進めていくべきだと思っております。

やはり今回の大震災で先ほど町長も言われましたけども、緊急ときに遭遇すると非常に役場の機能が低下します。何も備えていない自治体、それからそういうようなBCPをきちんと導入されている自治体では大きな差があるというふうに今言われております。ですからぜひ早期維持、早期復旧することができるように、こういうような事業を導入されるような考えがありませんでしょうか。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 今回の大地震を経験をした日本国は、やはり過去のそれぞれの地域における地震を初めとする災害の歴史をしっかりとまず学ぶことが必要であるということを感じております。おおよそ1,000年ぶりの大地震でなかったであろうと言われておりますが、それにあわせるかのごとく、次にこのあたりで間もなくこの程度の地震があるであろうというようなことがもう既に語られておるわけです。

我が町の過去の歴史に、地震に関して振り返ってみますと、新しいところでは鳥取県西部地震がございます。日野町が震源地でありました。我が町は、倉吉の震度より1度低い震度でございました。その前は昭和58年に鳥取県中部地震、波関を震源とした中部地震がございました。これから数えてもう25年を過ぎておるわけです。この地震が、その最先端がどのあたりでとまってエネルギーを蓄えているのかというようなことについては、鳥取大学の名誉教授の西田先生は、そろそろ波関の震源地で発生した地震のことについても話をし合わんといけんということをおっしゃっておりまして、これは鳥取大地震のその先端が鹿野あたりでとまっていると予測をしていたにもかかわらず波関まで延びていたわけでありまして、これは一方の力が西小鹿の大規模林道の岩ばかりのところにつつかって、90度の角度で東小鹿の上庄を襲って、そして三徳の奥のあたりでとまっているんじゃないかというふうに言われている鳥取県中部地震のその後でございます。その前は、鳥取大地震が昭和18年でございましてあります。これはもう大

変な地震でございました。それから数えての年数になると、相当な年数がかかってまいります。そういった歴史をしっかりとまず私たち自身がおさめた上で、今、清水議員がおっしゃっているこういう場合はどうだ、こういう場合はどうだということで初動対応マニュアルについてしっかりと、その専門のオペレーターの方にお任せするというのではなくて、私たち自身でこうした場合にはどうだ、こうした場合にはどうだというものをまず内部でしっかりと検討し合うことが大切であろうというふうに思っています。

今回の岩手、福島、宮城を襲ったこの大地震の中で、一方で奇跡と言われておりますが、3県の保育園の園児が一人も亡くならなかった。これは一体何だということが今検証されているわけですが、保育園の園長を初め職員の方が、町はここを避難所にせよと言うけども、そこを見に行ったらこれはだめだということで、別のルートでの避難所を保育園なりにつくった。そういうことが今非常に語られるようになってきておるわけでありますので、ただ単に町がつくった計画そのものだけではなくて、それぞれの部署にいる一人一人の職員が万が一に備えるその勉強と対応能力、そういうことが今後の危機管理には極めて重要であろうということを痛切に思っているところであります。

したがいまして、そういう清水議員のおっしゃる方向をきちっと備えていかねばなりません。備えるに当たって、私たち自身がしっかりとその事前の対応に備える心構えがまず肝要かと思う次第でございます。

○議長（牧田 武文君） 清水議員。

○議員（1番 清水 成真君） 私がこれから言おうとしたことを町長は言われてしまいましたけども、やはり幾らすばらしいそういうマニュアル、危機管理システムをつくったからといっても、それを運用するのは人間なんですよ、結局は。やはり個々の行政職員の能力が問題になるわけですね。それが問われるわけです。やっぱり危機状況で多くの予想しなかった事態が生じるわけです。ですから、計画やマニュアルが機能しないことももちろん考えられるというわけですね。仮にマニュアルどおりに動けば対応できる状況でも、マニュアルを見ることができない場合もあります。それから、そういうときに個々の行政職員がどのように行動するのか。結局は、状況を把握してみずから判断で行動することが要請されるということでもあります。そしてそのような問題解決のためにみずからが考えて、そして行動していくことが本来の行政職員の姿でないのかなと思っております。

私たち日本人は、この大震災の大きな痛み、そして教訓をこれからの強い防災に対する強い町づくり、減災の町づくりに向けて取り組んでいかなければならないと思っております。

先ほど町長が言われました防災行政無線のデジタル化、プロポーザルをする。今期予算でそういうようなことを考えている。公民館施設や公共施設の耐震化に向けた調査もちょっと視野に入れてみたいというようなことを言っておられました。さらなる体制づくりが求められていると思います。

町長におかれましても、何とぞ早期にあらゆることを想定して、そして町民が安心して生活できる環境づくりをしていただきますようお願い申し上げます。

最後に、何かありましたら一言いただきまして終わりたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 豪雨でたくさんの方が亡くなられた佐用町の町長を見舞った日のことが今鮮明に問われて思い浮かぶわけではありますが、マニュアルどおりに動かれた町民の方が9名も側溝に流されて亡くなってしまわれた。じっとしていただければ命は助かったものというのが、行ったときに町長や向こうの消防団長が開口一番話されたことでありました。

したがいまして、今、清水議員が言われるようにマニュアル頼りという形ではやはりいけない。防災教育というのは本当に町の中にしっかりと、自分たちの村の周辺はこうだということをしつかりと村ごとに確認をし検証する、そういう教育が大事であろうというふうに思っていますので、今後ともに御指導、御鞭撻を賜りますようお願いをする次第でございます。努力してまいります。

○議長（牧田 武文君） 清水議員。

○議員（1番 清水 成真君） 以上で終わります。

○議長（牧田 武文君） 清水成真議員の一般質問を終わります。

○議長（牧田 武文君） しばらく休憩をいたします。再開を午後1時15分といたします。

午後0時01分休憩

午後1時13分再開

○議長（牧田 武文君） 再開いたします。

9番、知久馬二三子議員の一般質問を許します。

三朝町の観光行政と活性化に向けて、知久馬二三子議員。

○議員（9番 知久馬二三子君） 私は、三朝町の観光行政と活性化に向けて町長にお尋ねするものでございます。

第10次三朝町総合計画では「心豊かでキラリと光る町」がキャッチフレーズとして掲げられております。人口の減少は全国的な傾向にあり、三朝町においても年々減少しております。

第10次三朝町総合計画における三朝町の将来人口については、2010年が7,068人、2015年が6,631人、2020年が6,131人となっております。

主な施策の目標として、町内の年間宿泊数は2010年が35万人、2015年に39万人と掲げてあります。そして、湯治による宿泊数が2010年に1万3,000人とあります。杉原議員さんのあれの中で町長は、2010年は1万5,900人、2,000人伸びておるような答弁がありましたけども、計画では1万3,000人。それから、2015年では3万人。それから、外国人宿泊者が2010年で1,200人、2015年で5,000人。これは一部ですが、農林業の拡大、商工業の振興、雇用対策の推進など、5年後の目標は高い数値が示されております。

ことし3月11日に起きました東日本の大震災による旅行客の減少が3月から4月にかけて9,000人、それから5月から6月にかけて4,000人という状況だということで、大変厳しいということがございましたけれども、計画に掲げてあるところは本当に高い数値が上げられておるところでございます。

また、出生率の増加で1,000人当たりで2010年では8.4人、2015年では9.0人の目標が示されております。将来の三朝町の人口予測では減少をたどっていますが、さきに述べましたけれども、目標が大きく掲げてあります。この目標を達成するためには、まず人口増加対策というか定住対策、それと雇用対策を考えなければならないと思うのですが、町長のお考えをお伺いするものでございます。

次に、具体的な計画の目標として2007年の3月議会で私質問いたしました、山間部では過疎化が進み進行しています。そして三朝温泉においても、その後も店舗が廃業されています。その中でも、今、温泉街の中に遊技場がありますがそれが閉鎖されておまして、本当に夕方にかけては子供たちや大人たちも出入りしていたにぎやかなその現状には今ありません。その後の店舗が廃業されておりますが、そして現在の店主等も高齢となりつつあり、ほとんどの店に後継者がいないように見受けられます。そうなれば、三朝温泉街と呼べるものがなくなることは明らかです。温泉街の一種の過疎化と呼べるものではないでしょうか。温泉街の明かりが消えるとき、町が薄暗く人通りもありません。町からその温泉街という個性がなくなり、生活感、らしさ、かわいとしての魅力がなくなってきつつあります。このようになれば、旅館だけでは他の温泉街との競争ができなくなるのではないのでしょうか。また、集客ができるのでしょうか。私は、本当に不安

でなりません。

時代とともに客種も変わり、それに対応すべき施策が必要であります。さき方も言いましたけれども、2007年のときの私の質問に対しまして町長は、三朝温泉街の活性化については地域を挙げて皆が一丸となって観光ニーズに配慮した取り組みが必要で、これまでと同じ対応では進展がないとの回答をされました。

温泉街については、その後何の進展も見られません。地域協議会の中でも、地域を挙げて取り組みをされている地域もあります。しかし、地域を挙げて取り組むことは大切であります。行政指導も必要ではないでしょうか。さき方申しましたように、遊技場が閉店したのはどうした理由で閉店されておられるのかというようなことも原因をたどりながら、行政のアドバイスや手を差し伸べることがあってもいいのではないかと思います。

第10次三朝町総合計画にあるように美しい言葉だけを並べて、目標を達成しなければ私は絵にかいたもちでしかないと思うのでございます。

最後に、どのような取り組みをされているのかを具体的な計画についてお伺いするものでございます。

○議長（牧田 武文君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 知久馬議員の三朝町の観光行政と活性化に向けてについての御質問にお答えします。

まず、人口増加対策と雇用対策についての御質問にお答えします。

先ほどの杉原議員の御質問でも答弁いたしました。本町のいわゆる生産年齢人口は、昨年の4,024人から10年後の平成32年には3,269人となり、約800人減少すると予測されています。私は、この年齢層の人口を増加させることが町の活力の創出に結びつくものと考えており、子育て支援体制の充実、地域産業の振興と雇用の創出と確保、定住対策の促進などの施策を計画的に実施していくことが重要だと考えております。

子育て支援については、子育て支援センターや放課後児童クラブの運営、ファミリーサポートセンターの開設、さらには各種の母子保健事業の推進や中学生以下の子供の医療費の全額助成、県内で一番安い保育料の設定などといった対策を行っているところであります。

また、新しい保育園の建設については、現在議会の皆様と御議論させていただいているところでありますが、私といたしましては子育てするなら三朝町でと言われるような環境整備を進めていきたいと考えているところであります。

次に、地域産業の振興と雇用対策については、町内事業所の新規雇用の促進を図るため、本年

度より町内の新卒者を雇用した事業主の方に対し、新規雇用者の給与の一部を助成する三朝町新卒者雇用奨励事業に取り組んでいるところであります。

また、本町は町内での就業機会が限られているため、近隣市町を通勤圏としてとらえ、いわゆる姫鳥線、山陰線などの道路網の整備など、全県的に交通インフラの整備が着実に進められてきていることから、広域的な視野に立った企業誘致や雇用の確保対策を進めていくことも重要だと考えております。

現在、倉吉市と中部4町で協定を結んでおります定住自立圏の中で、企業誘致のための情報発信や雇用の創出についても県の県外本部とも十分連携を図りながら、引き続いて対策を進めていきたいと考えております。

定住対策については、定住自立圏形成協定に基づき今年3月に策定した鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの中で空き家情報の連携事業、田舎暮らし体験プログラムの連携実施事業、移住情報の発信事業などを行うことにしており、今後中部1市4町が連携を図りながら、定住対策に取り組んでまいりたいと考えています。

また、本町の定住対策の窓口を明確にするため、本年度より総務課地域づくり支援室がその窓口となることとしたところでありますし、本町独自の取り組みとして今年度から三朝町す（住む）ま（米）いる（居る）応援事業、「住む、米る、居る」、このす（住む）ま（米）いる（居る）応援事業を創設し、町外からの定住を促進していくことといたしております。

さらに、Jターン・Iターン希望者への定住情報の提供について、県や県の移住定住サポートセンターとも連携して取り組んでまいりたいと思います。

現在、先ほどの御答弁でも申し上げましたが、4月以降三朝町へ移って住みたい、あるいは三朝町で現代湯治等の長期の滞在等を希望するというふうなことが、今、窓口の総務課地域づくり支援室に参っておりますのは、栃木県、京都府、兵庫県、大阪府そして鳥取県内、こういうところからそういった希望が来ておりまして、この6月の20日は栃木県の方はこちらに出向いてこられるというふうに担当職員から伺っているところであります。

空き家も相当町内にはあるわけでありまして、現実的にいざ提供していただけますかということになると、なかなか成就してないのが現在の実態でございますので、今後皆さん方の御協力をいただきながら、ぜひ実現するように頑張っていきたいと考えているところであります。

次に、温泉街の振興に係る具体的な計画についての御質問についてお答えいたします。

三朝温泉街の現状は、議員御指摘のとおり空き店舗の増加や空き地が点在するなど、憂慮すべき状況だと感じているところであります。これは私に限らず、三朝温泉で観光業に携わっておら

れる方々や地域住民の皆さんも同じように感じておられるものと推察いたします。三朝温泉には年間約35万人の宿泊客が訪れており、このことは1日あたりにしますと1,000人以上の交流人口が本町に定住されているということでもありますので、このことが町の活性化を支えているとも言えると思います。一日1,000人という数は、そう小さな数ではありません。この現実をまず踏まえる必要があると思っています。この一日1,000人の御努力は、どういう皆さんの御努力によって実現ができているのか、そういうことも深く考えてみる必要があるかと存じます。

そしてもう一つは、我が町に行ってみたいと思う方が毎日1,000人以上町外からおいでになってる、こういうことも改めて思うところであります。

昨年度から本格的にスタートした現代湯治は、ラドン温泉の効能を生かした健康増進と長期滞在を組み合わせた観光商品であり、昨年度はおよそ1万5,000人の利用があるなど、三朝温泉の観光客増加の大きな要因となっているところであります。私は、このような長期滞在型の観光客の増加に伴い、観光客の皆さんに温泉街で楽しく過ごしていただくための環境整備を進めていくことが喫緊の課題だと考えております。

現在、観光協会では30数年を経過した観光商工センターの機能を見直し、三朝温泉の新たな観光拠点としてのあり方を検討されているほか、商工会が主体となって旅館組合、NPOみさき温泉や三朝区とも連携しながら、空き店舗や空き地を活用した新たな店舗やコミュニティの形成も視野に入れた協議会を設置される予定だと伺っております。

NPOみさき温泉の皆さんを初めとする多くの町民の熱意によって完成した映画「恋谷橋」の上映が6月4日から始まりましたが、この映画を制作された後藤幸一監督は、三朝温泉に日本のふるさとの原風景があって、人のぬくもりがいつまでも感じられるところであってほしい、そんな思いで映画をつくったと述べられておりました。

私は、この三朝温泉街の景観を保全していくことも大事なことだと考えております。今後、三朝区を初めとする関係者の方々の御理解をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

長引く経済の低迷、そして東日本大震災による観光客の激減など、今、三朝温泉は大変厳しい状況にありますが、その中であって先ほどお話ししたように新たな動きも始まっております。私は、こういうときこそ行政と地域、観光関係者が一体となって三朝温泉の活性化に取り組むべきとその意を強くしているところであり、このことが三朝温泉街のみならず町全体の活性化につながるものと確信しているところであります。

先般、機会をいただいて宮城県の仙台に行っていました。仙台の市長は、こういう復興を

本当に期待をするのは観光が一番早いという言い方をしておられました。改めて観光地である三朝町として、今後さらに努力をしていかねばいけないと思う次第でございます。より一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願いを申し上げて、答弁といたします。

○議長（牧田 武文君） 知久馬議員。

○議員（9番 知久馬二三子君） ありがとうございました。

答弁が杉原議員さんが質問された中の答弁、私の質問の中でも何か多かったと思います。

私は、さき方町長が一日に1,000人の人たちが来ると言われましたけども、本当に温泉街を通ってみればどこにその1,000人、三朝町全体この広い中ですから思いますけれども、本当に今は暗くて本当に寂れちゃっておりますね。それをいかに今言われたように行政、観光、商工等が一体になりながら進めていかないけんと言われますけれども、その私は三者が一体になってないと思うんです、その状況を見とる中で。それらを私はずっと以前から本当にあいさつ運動を広げていかないけないということを常に言ってますけど、そのあいさつすらなくなってないと思うんですよ。

例えば旅館の前を歩いて、そこに従業員さんがおられますでしょう。こんにちっては言たって知らん顔。そういう状況の中で、三朝町が本当に来てみたい町になるかなということを常々思うんですよ。それらをやっぱり行政としてと言ったって、町長の方では行政はそのことについてはそれぞれの立場の中でやっていかないけんと言われるんですけども、それらをとってみても本当に町が寂しいとか活気がないとか、そういうことを非常に考えますので、それらについて町長はどういうように思っておられますか、その御意見を聞きたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 後で企画観光課長から補足をさせたいと思っておりますが、現在三朝温泉のそういった活性化に向けて3団体等が協議会をつくろうとなさって、動きを始めていらっしゃることは課長の方から申し上げたいと思いますが、旅館においでになる方がどうすれば町の中に出ていただけるかということでもあります。

やはり一つは、自然が与えてくれる三朝温泉特有の持っている力というものがあろうかと存じます。それはまず自然的な温泉でいえば足湯であったり、そしてカジカガエルもそうなんです。その鳴き声を聞いて、心和む気持ちにおなりになる。ここまではどなたもカジカガエルについてお話しなさると思うんですが、鳴いているのは雄ばかりなんですよと、雌は鳴きませんよ、このあたりからの話を旅館の中でいろいろ従業員の方がお客さんに話をさせていただくと、ちょっと外へ出てみようかなということにもなろうかというふうに思います。

それから、やはりこの時期ですと蛍であります。この蛍も、三朝温泉の中でカワニナが育っているところというのはごくごく限られた場所で、ここは非常にたくさんいるというところをはっきり言えるわけでありますので、あとは街灯と蛍との関係で街灯の明かりがこういう状況でもっていけば、やはり蛍の光は消されてしまうんであろうなというふうに思います。

そうした自然が与えてくれているものをどうお客様に提供することができるかというふうなことも、非常に大事なことではないのかなと思います。

それから、おいでになったお客様も地元の者と、例えば偶然出会ったどっかの居酒屋で一晩ゆっくり情報交換しながら楽しいひとときを過ごす。こういうこともあの町に行ったらよかったなというようなことに結果的になるんだらうというふうに思いますので、そういう雰囲気はどう醸し出していただくということについても、みんながいろいろかわりを持っていく必要があるというふうなことも思っています。

三朝温泉は温泉街の中を川が流れていて、非常にそういう面では自然に恵まれた情景であるというふうに思っていますので、誘う、その仕方について今後なお一層努力をしていかなければいけないと思っているところであります。

あとは課長から補足をさせます。

○議長（牧田 武文君） 企画観光課長。

○企画観光課長（松浦 弘幸君） 三朝温泉での活性化の取り組みについて御説明をさせていただきます。

昨年、平成22年に観光客数が36万人を超えまして、それは現代湯治を始めたこととか、それから三朝温泉のブランド化事業だとか、いろんな形の事業を3団体が中心になって取り組んできたことだと思っております。

その中で、いろんな事業をする中で共通してきた課題といたしますが、いわゆる議員も御指摘をされましたけど、空き地があったり空き店舗があったり、そういったところが非常に温泉街の中にある。そういうことが今共通認識として出ております。といたしますのは、先ほど町長も御説明しましたけど、現在商工センターの老朽に伴う見直し、それからそれに伴って温泉広場、それから「恋谷橋」映画記念館を設置をしております建物、それから陣所の館とか、そういったような活用の話も出てきておまして、その中でやはり三朝の温泉街というのがこれからの三朝温泉を活性化していく核にしなければならないというのが今の3団体の共通した認識だというふうに、それは町も含めてそうなんですけど、そういうふうになってきております。

これまでは、言われますように必ずしもその一致した思いというのではなかって、ある面では

ばらばらという表現があったかもわかりませんが、今の取り組みはそうではなく、そういったような形を地域の方で解決をしていこう、それであるものを使って生かしていこうという思いがございますので、そういうことを行政としてもサポートしながら進めていきたいというふうに思っております。

それから、観光関係者等のあいさつにつきましては、昨年もバッジをつけまして心あったか運動というのを観光協会、商工会主催で行っております。いい結果が出たとそれぞれ評価をしておりまして、また続けていきたい。そういったようなもてなしの心、気持ちもさらに努力をしてまいりますというふうなことで進めております。以上でございます。

○議長（牧田 武文君） 知久馬議員。

○議員（9番 知久馬二三子君） それぞれそれなりに進めておられると思いますけれども、さっき言いましたように本当に3団体が一体にならないいけないことと、それから地域の住民の人たちがそこにどれだけ入っていくか。そうでないと、全体をくくって温泉街というかその温泉の活性化というものを考えていかないと、ただ本当に今地元において思うのは、とにかくばらばらだということを言いたいです。そこをしない以上、本当につぶれていくとか、これから先幾ら、これまで何回も何回も言ってきましたけども、だんだんだんだん疲弊しております、温泉街が。だからそこら辺あたりを3団体が一体になってこれから頑張っていこうということのようだけれども、まず言いましたように本当に地域を含めた、3団体と含めたそのことを考えていかないと温泉街なくなっていくじゃないかと本当に心配しております。

それから、あいさつ運動にしましても、本当にみんながあいさつ、こんにちは、その声かけというのが非常に大切なことだと思うんですよ。それがやっぱりみんな一人一人が心得て、それを進めていくということをしなないといけないと思います。

温泉街だけの問題について私は質問したわけなんですけれども、皆さんがやっぱり温泉街を一遍通ってみてほしいと思うんです。その実態をちゃんと把握しながら、本当にどう進めていかということをしっかりと受けとめてもらいたいなと思います。

今回の10次の計画には、本当に美しい言葉がいっぱい並べてありますけど、それがさき方も言いましたように本当に実態として伴わないと、本当にそれこそ絵にかいたもちにしかすぎないと思いますので、そこら辺あたりをしっかりと考えてほしいと思います。

さっき質問の中で遊技場がなくなると、閉鎖しとるということに関しましてどのように受けとめておられるか、一言お聞きしたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） ただいまおっしゃった件については、よく聞いてみないとわからないという状況でございますので、よく伺ってみたいと思います。

○議長（牧田 武文君） 知久馬議員。

○議員（9番 知久馬二三子君） さき方も言いましたようにその実態をやっぱり知っていただかないと、温泉街って本当に店が、清美堂さん自体がもう亡くなられてなくなったという経過もありますけれども、あの辺が一带。それで店が出とるっていったら梅屋さんだけぐらいですね。梅屋さんも要望にこたえて出すというような状況ですので、そこら辺あたりを真剣になって取り組んでもらいたいと思うんですけれども、そこら辺もう一度お願いします。

○議長（牧田 武文君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 責任者の方とちょっとよく把握していないものですから、それらをよく聞いた上でまた御返答申し上げたいと存じます。

○議長（牧田 武文君） 知久馬議員。

○議員（9番 知久馬二三子君） 同じようなことの繰り返しになりますけれども、本当に活性化を目指して、この10次総にありますようにみんな一人一人が本当に真剣になって取り組んでいただきたいと思います。

あとありませんので、以上で終わりいたします。ありがとうございました。

○議長（牧田 武文君） 以上で知久馬二三子議員の一般質問を終わります。

○議長（牧田 武文君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後1時44分散会